高速鉄道烏丸線

１０系車両案内表示装置（第１４編成）

仕様書

平成３１年４月

京都市交通局　高速鉄道部

高速車両課

第１章　総　　則

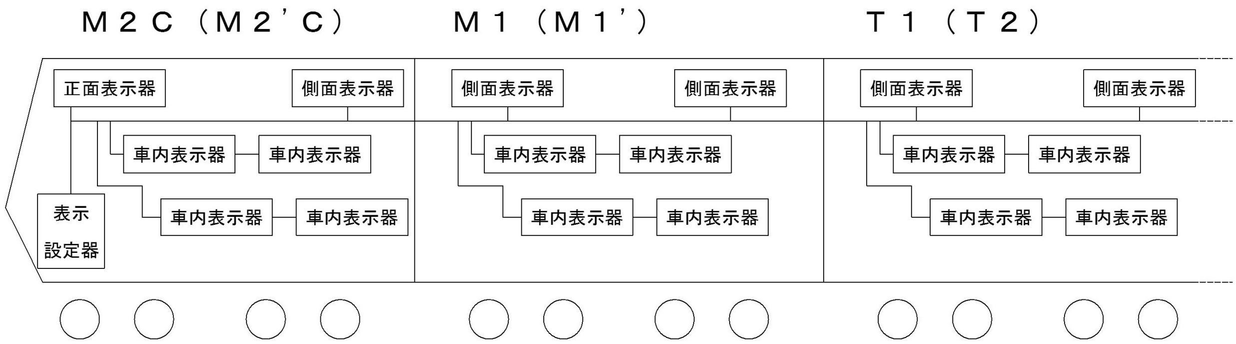
（適用）
第１条　本仕様書は，高速鉄道烏丸線１０系車両第３～５次車両（第１０～１７編成）（以下「本車両」という。）の案内表示装置（以下「本装置」という。）の設計，製作，検査，試験，納入及び機器取付に適用するものである。

なお，本車両は，近畿日本鉄道株式会社京都線（竹田～近鉄奈良）へ乗入れを行う。

（当事者）
第２条　本仕様書において，「甲」とは京都市交通局をいい，「乙」とは請負人をいう。

（製作納入範囲）
第３条　本契約に基づく製作納入範囲は，付表１のとおりとする。

（概要）
第４条　本装置は，表示設定器，車内案内表示器（以下「車内表示器」という。），車外行先表示器（正面）（以下「正面表示器」という。）及び車外行先表示器（側面）（以下「側面表示器」という。）等から構成され，乗客サービス向上として，表示設定器からの指令により側面及び正面表示器に種別，行先等を表示し，車内表示器に行先案内，次駅案内，扉開閉表示，乗換案内，停車駅案内，ＰＲ文，緊急案内文等を表示するものである（図１）。



※図は６両編成のうち半数の３両分を示し，構成はＭ２Ｃ，Ｍ１，Ｔ１，Ｔ２，Ｍ１’，Ｍ２’Ｃとする。

図１.　案内表示装置のシステム

（主要諸元）
第５条　本装置の設計及び製作に必要な主要諸元は，付表２のとおりとする。

（設計及び製作上の注意）

第６条　本装置は，主要諸元等を満足し，列車が円滑かつ安全に走行できるものとする。

２　本装置は，軽量かつ堅ろうなものとし，監督官庁の確認及び許認可を得るのに支障がないものとする。

３　本装置の設計及び製作に際して，他の装置との動作，機能及び特性上の整合性を図り，検査設備にも適合できるものとする。

４　使用する材料は，十分吟味し，設計及び製作は入念かつ丁寧に行い，細部の構造及び機能等は，実用上最も優れたものとする。

５　地下及び地上で使用するため，高温多湿な環境，風雨雪の害，騒音，振動及び塵埃等予想されるすべての条件に対して十分な配慮を行い，長期にわたって安全確実で円滑な機能が維持できるとともに保守の容易なものとする。

６　本装置は，小型軽量化及び省エネルギー化を図るものとする。

７　本装置で必要となる交換部品，保守部品等は，調達が容易であること。

８　乙は，３～５次車の既存配線（電源線，伝送線，接地線等）を流用するものとし，必要な配線が不足している場合は，必要な配線を乙が車両に敷設しなければならない。また，他の既存機器とのインターフェースについても原則変更しないものとする（将来対応機器を除く）。

（関係法規の適用）

第７条　本装置は，京都市交通局契約規程，鉄道事業法等関係法規，京都市高速鉄道車両実施基準及びＪＩＳ等関係規格を遵守したうえで，設計，製作及び検査を行うものとする。

（仕様書の解釈）

第８条　本仕様書に明記されていない事項及び不明な事項については，契約前に甲に照会し，契約後は，甲の解釈及び指示に従うものとする。

（変更）

第９条　契約後においても，甲が必要と認めたときは，軽微な変更を行うことができるものとする。その場合，乙は契約金額内で応じるものとする。

（互換性）

第 10 条　本装置は，更新済みの案内表示装置等との電気的互換性及び取付けの互換性を有し，周辺の機器に支障することなく車両に設置することができるものとする。

（特許及び実用新案）
第 11 条　乙は，本装置について，国内及び国外の特許，実用新案及び意匠並びにその他権利上の問題が生じたときには，これの解決に当たるとともに，これらに関するすべての費用及び損害を負担し，甲にいかなる支障も及ぼしてはならない。

（工程表）
第 12 条　乙は，契約後，遅滞なく工程表を提出し，甲の了解を得るものとする。また，工程表に変更が生じたときも，直ちに変更届を提出し，了解を得るものとする。

（打合せ）
第 13 条　乙は，本装置の設計，製作，検査，納入，試験及び取付に当たり，甲と十分な打合せを行い，打合せ事項についてその都度，別途指示する書式の議事録を提出し，甲の承諾を得るものとする。

（図書の提出）
第 14 条　乙は，甲の指示する様式により指定期日内に次の図書を提出すること。
（１）承認図（外形図，部品図，配線図，使用材料等）･･････････････ ３部
（２）物件供給検査申請書･･･ ２部
（３）再委託承諾申請書（必要に応じて）･････････････････････････ １部
（４）完成図書（各種図面，部品図，検査要領書，取扱説明書等）････ ５部
（５）製作写真及び完成写真･･･････････････････････････････････････ ５部
（６）研修用教本及び研修用資料･･･････････････････････････････････ １式
（７）製造番号及び機器整理番号簿･････････････････････････････････ ５部
（８）初通電要領書･･･ ５部
（９）その他甲の指示する図書･････････････････････････････････････ １式
（10）前各号のうち，甲の指示する図書のデジタルデータ････････････ １式
２　乙は，必要に応じて車両確認申請に必要な書類を提出するものとする。
３　第１項及び第２項の提出書類について，同型式の既納品があり内容に変更がない場合は，甲の指示で省略できるものとする。

（支給品の管理）
第 15 条　乙は，甲から機器等の支給を受けたときは，別途指示する書式の預り証を提出しなければならない。また，支給品について，損傷，変質，機能の低下及び紛失等を生じないように十分な管理を行い，支障が生じたときの補償は，すべて乙が負担するものとする。

（技術指導）
第 16 条　甲は，必要が生じたとき，乙の工場に出入りし，技術指導ができるものとする。

（完了検査）
第 17 条　本装置は，甲が指定する場所において，甲の立会いの下に別に指示する試験及び検査を行い，これに合格しなければならない。ただし，甲が認めたものに限り，乙の試験成績書又は検査成績書により，合格を与えることがある。
　なお，試験及び検査に必要な資材及び設備等の提供並びにこれらに要する費用は，すべて乙の負担とする。

（保証期間）
第 18 条　本装置の保証期間は，甲の検査合格後から５年間とし，車両への取付作業及び車両の改造に関する部分の保証期間は，甲の検査合格後から当該車両の初回の全般検査又は初回の重要部検査（４年周期）までとする。また，この期間に生じた設計，工作及び材料の不良等による不具合については，乙の責任において，甲の指定期日内に無償で修理，改造又は新品との取替えを行うものとする。ただし，甲に責あるときは，その限りでない。

（協調不備に伴う保証）
第 19 条　本装置が他の関係機器（近鉄線含む）との協調不備により，運転条件その他を十分満足できない場合，乙は，甲及び他の関係機器メーカーと協議のうえ，甲の指示に従い速やかに処置しなければならない。

（搬入）
第 20 条　本装置は，甲が指示する内容の試験及び検査に合格した後，甲の指示する時期に竹田車両基地に搬入するものとする。
　なお，搬入に必要な資材，設備，費用及び本装置搬入完了までの紛失及び損傷等のすべての責任は，乙が負担するものとする。
２　本装置の搬入場所は次のとおりとする。
　京都市交通局竹田車両基地　車両工場竹田検車区（整備場事務所）
　（住所　〒６１２－８４２９京都市伏見区竹田西段川原町１８）

（履行期限）
第 21 条　履行期限は，付表１のとおりとし，履行期限までに甲の完了検査に合格するものとする。

（特記）

第 22 条　作業に必要な資材，設備，費用等は乙が負担するものとする。また，取付作業に伴う既存設備の破損，損傷等のすべての責任は，乙が負担するものとする。

2　本装置の取付作業後，乙は，構内及び本線試運転にて本装置の機能検査を行うものとする。

3　乙は，本装置の性能及び機能等については，本装置の運用開始以降も整備その他に十分協力し，責任を負うものとする。

4　甲が検査又は修理を要請したとき，乙は，誠意をもってこれに応じるものとする。

5　甲の要請により，甲が指定する場所，日時において，本装置の取扱い及び保守要領等，必要な知識の習得について研修を４日間程度行うものとする。これらに必要なすべての費用は，乙が負担するものとする。

6　発生する廃棄物については，乙の責任において処分するものとする。また，廃棄に伴う費用は，乙が負担するものとし，処分後に甲にマニフェスト等の写しを提出するものとする。

7　支払方法は，甲の完了検査合格後の一括支払いとする。

8　本装置は，将来の組成・装置構成・運行形態等の変更に対しても軽微な変更により対応できるものとすること。

9　本装置は納入後，検査に先立ち部分使用できるものとする。

第２章　一　　般

（設計及び製作の指針）

第23条　本装置は，表示設定器，車内表示器，正面表示器及び側面表示器等から構成される（付図１）。

表示設定器は，種別，行先設定により各表示器の制御を行う。また，始発，種別，行先データから列車の走行パターンを自動認識し，所定の走行位置で各表示器へ自動的に表示データを送出して表示させるものとする。

車内表示器は，行先案内，次駅案内，扉開閉表示，乗換案内，停車駅案内，ＰＲ文，緊急案内文等を表示し，正面及び側面表示器は種別，行先等を表示するものとする。

２　表示文字，表示色の詳細については，甲が指示する。

３　表示言語は，日本語，英語，中国語（簡体字）及び韓国語の４箇国語とし，表示文章は原則として甲が用意したものを使用すること。ただし，甲が指示した場合は，甲が示す日本語の文例を元に，各言語に翻訳したものを乙が用意するものとする。

４　走行区間は，市営地下鉄烏丸線（以下，「市交線」という。）（国際会館～竹田）及び近鉄京都線（竹田～近鉄奈良）とする（付表３）。

５　表示設定器は，タッチパネル式とする。

６　車内表示器は，フルカラー液晶表示器とする。

７　正面表示器及び側面表示器は，高輝度ＬＥＤ表示器とする。

８　車両情報装置（モニタ装置）とのインターフェースとしてＲＳ-４８５用伝送ポートを表示設定器に準備し，将来的なワンマン運転，ＧＰＳ情報を利用した表示設定にも対応できるものとする。また，車内表示器にも将来的に扉開閉予告灯及び扉開閉ブザー兼誘導鈴を動作させるための準備を施すものとする。

９　入力電圧は次のとおりとする。

（１）制御電源

直流１００Ｖ

（２）車内表示器，正面表示器及び側面表示器用電源

単相交流２００Ｖ（周波数６０Ｈｚ）

ただし，制御電源は，低圧電源装置と蓄電池から供給される直流１００Ｖを標準とするが，７０Ｖ～１１０Ｖの変動範囲においても，異常なく動作するものとする。

10　使用温度範囲は，－１０℃～＋５０℃，相対湿度は，３０％～９０％（結露なし）とする。

11　本装置は，保守が容易な構造とし，誘導障害対策を細部にわたり施したものとする。

なお，当該装置による誘導障害の影響が確認された場合，乙は必要な対策を講じるものとする。また，これらに要する費用は，すべて乙の負担とする。

12　甲と協議のうえ，低損失，省エネルギーに寄与する技術は積極的に採用すること。

第３章　　細　部　仕　様

第１節　材料及び工作

（材料一般）

第 24 条　材料は，すべて精選された優良なものを用い，十分な絶縁耐力を有するものとする。規格は，原則としてＪＩＳによるものとする。ただし，ＪＩＳによりがたいものについては，あらかじめ甲の承諾を得るものとする。

２　使用する電線は，原則として，難燃性ハロゲンフリー電線とする。また，可能な限り無リン電線とする。

３　甲が指示する部品の材料については，鉄道車両用材料燃焼試験において不燃性以上の性能を持つものとする。

（工作一般）

第 25 条　工作は，細部に至るまで入念かつ丁寧に行うものとする。

２　組立に際して不具合が生じたときは，甲の了承を得ず部品を加工してはならない。

３　外部との電線の接続は，原則として多芯コネクタによるものとし，誤挿入防止を図るとともに，構造及び取付方法等は，操作し易いものとする。

４　製作等にあたり箱の軽量化及び内部装置の保守の容易化を十分に考慮したものとする。

第２節　製作仕様

（方式及び定格）

第 26 条　本装置の製作仕様は次のとおりとする。

（１）表示設定器

　ア　方式及び定格は次のとおりとする。

項　　　目	方　式　／　定　格
入　力　電　源	直流１００Ｖ
メ　モ　リ　カ　ー　ド	ＣＦ（コンパクトフラッシュ）ＴＹＰＥ１ ２スロット　１ＧＢ
速度発電機入力特性	パルス数　９９パルス／回転 車輪径　７８０～８６０㎜ 出力電圧　最小　１．６ＶＲＭＳ／５ｋｍ／ｈ 最大　１５ＶＲＭＳ／１１０ｋｍ／ｈ 入力インピーダンス　１０ｋΩ（３００Ｈｚ）
デ　ィ　ス　プ　レ　イ	表示素子　ＴＦＴカラーＬＣＤ 表示面寸法　　１１５．２（W）×８６．４（H）〔㎜〕程度 解像度　　３２０×２４０（ＱＶＧＡ）以上 バックライト　白色ＬＥＤ （平均寿命：連続点灯　５０，０００時間以上） 表示色　１６，３８４色以上

外部インターフェース	行先データ並列２進コード４点（車両情報Ｉ／Ｆ） ＲＳ４８５（車両情報Ｉ/Ｆ準備）

イ　外形寸法は付図３のとおりとする。

ウ　表示言語は，日本語（漢字，ひらがな），英語，中国語（簡体字），韓国語の４箇国語とする。

エ　扉の開閉方向が不定の場合に手動で開閉方向を選択できるスイッチを設けること。

オ　車内の表示内容の割当ては甲の指示によるものとする。また，割り込み文も表示できるものとする。

カ　表示設定器で付表４の種別及び行先を設定できるものとする。

キ　詳細は甲の指示による。

（２）車内表示器

ア　方式及び定格は次のとおりとする。

項　　　　目	方　式　／　定　格
入　力　電　源	単相交流２００Ｖ　６０Ｈｚ
液晶ユニット	フルカラーＬＣＤ ＬＣＤ表示範囲　９０mm（H）×４８０mm（W）程度，輝度　５００（ｃｄ／ｍ^2）標準値
表　示　色	１画面最大１６７０万色以上 （１画面部品あたり２５６色程度とする。）

イ　外形寸法は付図４のとおりとする。

ウ　扉開閉に応じて１台の表示器で２台の扉開閉予告灯を動作させるための準備をするものとする。

エ　扉開閉に応じて１台の表示器で２台の扉開閉予告ブザー兼誘導鈴（２音声）を動作させるための準備をするものとする。

オ　詳細は甲の指示による。

（３）正面表示器

ア　方式及び定格は次のとおりとする。

項　　　　目	方　式　／　定　格
入　力　電　源	単相交流２００Ｖ　６０Ｈｚ
表　示　数	２０以上（切替表示）
ＬＥＤユニット	ＬＥＤ表示有効範囲：９６０（W）×１９２（H）㎜ 有効ＬＥＤドット数：１６０（W）×３２（H）ドット ＬＥＤドットピッチ：６㎜
表　示　色	８色（５１２色（ＲＧＢ各８階調）の内から任意の８色を選択）

イ　外形寸法は付図５のとおりとする。

ウ　詳細は甲の指示による。

（４）側面表示器

ア　方式及び定格は次のとおりとする。

項　　目	方　式　／　定　格
入　力　電　源	単相交流２００Ｖ　６０Ｈｚ
表　　示　　数	２０以上（切替表示，次駅表示にも対応可能）
ＬＥＤユニット	ＬＥＤ表示有効範囲：５７６（W）×１６０（H）㎜ 有効ＬＥＤドット数：１４４（W）×４０（H）ドット ＬＥＤドットピッチ：４㎜
表　　示　　色	８色（５１２色（ＲＧＢ各８階調）の内から任意の８色を選択）

イ　外形寸法は付図６のとおりとする。

ウ　詳細は甲の指示による。

（画面仕様）

第 27 条　車内表示器，正面表示器及び側面表示器の表示パターン及び内容は，付図１２及び以下に示すほか，甲の指示によるものとする。付図１３に四条駅から烏丸御池駅を走行する際の表示内容を示す。これ以外の駅間についても同様とし，詳細は甲の指示によるものとする。

（１）車内表示器

ア　共通

基本４秒を最小単位として，自動で表示切替を行えるものとする。

イ　画面の左半分

（ア）路線名，行先，駅名及び駅ナンバリングを表示するものとする。近鉄線内では路線名に代わり種別を表示する（以下同じ）。

（イ）路線名，行先及び駅名は，４箇国語を循環して表示するものとする。

なお，日本語表記の駅名と駅ナンバリングは，常時表示するものとする。

ウ　画面の右半分

（ア）路線案内，乗換案内，戸開方向案内及び緊急案内を表示するものとする。

（イ）路線案内は，マップ表示のうえ，駅名を日本語及び英語で循環表示するものとする。走行中には次の駅以降の５駅，停車中には当駅から５駅の路線情報を表示するものとする。

（ウ）乗換案内，戸開方向案内及び緊急案内は，４箇国語で表示するものとする。

（２）正面表示器

ア　種別及び行先を表示する。

イ　種別及び行先は，日本語及び英語で表示するものとする。

（３）側面表示器

ア　基本３秒を最小単位として，自動で表示切替を行えるものとする。

イ　行先，次駅及び駅ナンバリングを表示するものとする。

ウ　行先は，日本語で常時表示するとともに，英語，中国語及び韓国語を循環して表示するものとする。

エ　次駅は，日本語で表示するものとする。

2　種別及び行先は，次の6種類を基本パターンとする。ほかのパターンについては付表4及び甲の指示による。

（1）北行

ア　国際会館

イ　普通　国際会館

ウ　急行　国際会館

（2）南行

ア　竹田

イ　普通　新田辺

ウ　急行　奈良

（車両への設置）

第28条　乙は，本装置を甲が指示する車両に設置するものとする。更新後の機器ツナギ図を付図2に示す。

なお，本装置を正常に動作させるため，必要に応じてぎ装配線の追加・変更のほか，車両改造を行うものとする。ただし，将来対応機器準備用のぎ装配線はその限りではない。

（1）機器等

ア　表示設定器

既存の表示設定器を撤去し，新規製作した表示設定器を取り付ける（付図7）。

イ　車内表示器及び側引戸カモイ点検フタ

乙は，新規製作した車内表示器を取り付けた側引戸カモイ点検フタを新規製作するものとする。詳細は次のとおりとする。

（ア）既存の点検フタを撤去し，新規製作した点検フタを車両に設置すること（付図8）。設置数量は1両につき4箇所とし，6次車と同じ千鳥配置とする（付図1，2）。

（イ）点検フタの形状は，側引戸及び引戸戸閉機等の既存機器並びに既存配管等に干渉しないこと。

（ウ）点検フタの取付方法は，その支持に十分耐えられる方法を用いることとし，必要に応じてぎ装改造も行うこと。

（エ）点検フタには，点検フタを開いた状態で固定できる支え棒を設備すること。

（オ）点検フタには，扉開閉予告灯を将来取り付けるための切欠きを設け，扉開閉予告灯を設置するまではふさぎ板でふさいでおくこと。

ウ　正面表示器

既設の正面表示器を撤去し，新規製作した正面表示器を取り付ける（付図9）。

エ　側面表示器

既設の側面表示器を撤去し，新規製作した側面表示器を取り付ける（付図10）。

（2）配電盤

乙は，本装置の設置に伴い，次の配電盤を改造するものとする（付図２，１１）。

ア　１１００号車，１８００号車

（ア）３～５次車すべて

低圧配電盤１の「行先表示器」配線用遮断器（５A）を新しい配線用遮断器（１０A）に交換する。

（イ）３，５次車のみ

低圧配電盤１の無地の配線用遮断器の銘板を「行先案内制御」に交換する。

対応する２次側配線を接続する。

（ウ）４次車のみ

低圧配電盤１の配線用遮断器の銘板１つを「行先案内制御」に交換し，別の銘板１つを「塗油器」に交換する。

それぞれに対応する２次側配線を接続する。

イ　１２００号車，１３００号車，１６００号車，１７００号車

（ア）低圧配電盤７の「行先表示器」配線用遮断器（５A）を新しい配線用遮断器（１０A）に交換する。

2　乙は，表示設定器から戸閉保安装置箱までの配線３３１線及び３３２線を敷設する代わりに，案内表示装置の更新によって不要となる既存配線２３３A線及び２３３B線を転用することができるものとする。

3　設置にあたっては，第７条の関係法規の適用を遵守するものとする。

4　作業場所は，竹田車両基地を原則とし，これによらない場合は甲の了解を得ること。

5　本装置は甲の指示する日程で車両に取り付けるものとし，詳細な作業時期は，甲の指示に従うものとする。ただし，車両故障等の場合は車両運用を優先するため，急遽日程を変更することがある。

第４章　　試　験　及　び　検　査

（試験及び検査の内容）

第 29 条　本装置の納入に先立ち，ＪＩＳ　Ｅ５００６（「鉄道車両－電子機器」等に関係する標準規格）に基づき，次の各号に定める試験及び検査を行うものとする。

検　査　項　目	型式検査	受渡検査	適用試験項目
（１）外観・構造検査	○	○	(1) 項
（２）性能試験	○	○	(2) 項
（３）低温（耐寒性）試験	○	－	(3) 項
（４）高温（耐熱性）試験	○	－	(4) 項
（５）電源過電圧，サージ及び静電放電試験	○	－	(5) 項
（６）過渡バースト感受性試験	○	－	(6) 項
（７）絶縁試験（絶縁測定試験，耐電圧試験）	○	○	(7) 項
（８）振動及び衝撃試験	○	－	(8) 項
（９）組合せ動作試験	○	○	(9) 項
(10) 各部特性試験	○	○	(10) 項

※型式検査は同型式の納入実績がある場合は，省略することができるものとする。

（１）外観・構造検査

各機器の構造，寸法，材料及び仕上げ等が，本仕様書及び承認図に適合していることを目視検査すること。重量測定は型式検査のみ実施すること。

（２）性能試験

ア　電源変動試験

次の条件で正常に機能していることを確認する。ただし，周波数に関しては交流を電源とする機器のみとする。

（ア）公称電圧及び周波数

（イ）電圧及び周波数の上限値と下限値のすべての組合せ

イ　電源瞬断試験

電源電圧を瞬断させて正常に機能していることを確認する。

（３）低温（耐寒性）試験

低温状態においても，正常に機能することを確認する。

（４）高温（耐熱性）試験

高温状態においても，正常に機能することを確認する。

（５）電源過電圧，サージ及び静電放電試験

各試験波形を印加し，正常に機能することを確認する。

（６）過渡バースト感受性試験

試験波形を印加し，正常に機能することを確認する。

（７）絶縁試験

ア　絶縁抵抗測定

５００Ｖ絶縁抵抗計で２０ＭΩ以上であること。

イ　絶縁耐力試験

次の商用周波数電圧を１分間加圧し，異常があってはならない。

交流２００Ｖ回路　　交流１５００Ｖ

直流１００Ｖ回路　　交流１０００Ｖ

（８）振動及び衝撃試験

振動，衝撃試験実施後，外観，動作に異常がないこと。

（９）組合せ動作試験

表示設定器，車内表示器，正面表示器，側面表示器などを組み合わせた状態での動作試験を行うこと。

(10) 各部特性試験

各部の特性について，試験を行うものとする。ただし，内容等については別途指示する。

２　試験及び検査の詳細は，別途打合せのうえ，定めるものとする。

（現車試験）

第 30 条　本装置を甲の指示する車両に設置後，次の試験及び検査を行うものとする。詳細は別途甲の指示による（１日程度／編成)。ただし，型式に変更がない場合は，甲の指示により省略することができるものとする。また，甲が要請した場合，乙は，本装置設置後初回の全般・重要部検査の当該装置に関する検査に立ち会うものとする。

（１）　表示確認

（２）　速度入力，キロ程補正確認

（３）　甲の指示する検査

（試運転）

第 31 条　現車試験後，構内，市交線及び近鉄京都線の甲の指示する試験区間において，試運転を実施する。乙は実際の走行において本装置の機能を確認し，必要に応じて本装置の調整を実施するものとする（２日程度／編成）。ただし，型式に変更がない場合は，甲の指示により省略することができるものとする。

（成績書）

第 32 条　第 29～31 条に規定する試験及び検査の終了後，編成ごとに成績書を３部提出するものとする。

第５章　　付　　則

（測定端子等の設置）

第 33 条　本装置は，保守及び動作試験に必要な測定端子等を有するものとする。

（塗装）

第 34 条　塗装の色及び方法等については，甲の指示によるものとする。

（銘板，刻印及び機器整理番号板）

第 35 条　本装置の機器又は機器箱のうち，甲の指示するものには，所定の位置に次の項目を印した銘板又は刻印を付するものとする。

（１）形式及び名称

（２）製造番号

（３）製造年月

（４）製造社名

２　本装置の機器又は各部品のうち，甲の指示するものには，別途指示する機器整理番号板又は刻印を付するものとする。

（表示灯類）

第 36 条　表示灯類は原則としてＬＥＤとする。

【付図・付表】

No.	名　　　　称
付表１	製作納入範囲
付表２	主要諸元等
付表３	烏丸線１０系車両駅キロ程表（車内案内表示器）
付表４	種別・行先設定
付図１	案内表示装置システムブロック図
付図２	機器間ツナギ図
付図３	表示設定器外形図（参考図）
付図４	車内表示器外形図（参考図）
付図５	正面表示器外形図（参考図）
付図６	側面表示器外形図（参考図）
付図７	表示設定器取付図（既存）
付図８	側引戸カモイ点検フタ（既存）
付図９	正面表示器取付図（既存）
付図 10	側面表示器取付図（既存）
付図 11	低圧配電盤（Ｍ２’Ｃ，Ｍ２Ｃ）
付図 12	烏丸線１０系車両各表示器画面案
付図 13	案内表示画面の表示例

付表１

製　作　納　入　範　囲

１　製作数量

高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（第１４編成）	１編成分

本体金額（税抜）	

２　本装置の１編成あたりの製作内訳数量は，次のとおりとする。

番号	品　　名	1800	1700	1600	1300	1200	1100	計	備　考
1	表　示　設　定　器	1					1	2	
2	車　内　表　示　器 （側引戸カモイ点検フタを含む）	4	4	4	4	4	4	２４	LCD
3	正　面　表　示　器	1					1	2	LED
4	側　面　表　示　器	1	2	2	2	2	1	１０	LED

３　付帯作業

番号	作　　　業	仕　　　様	数　量	備考
1	取　付　作　業	車両への取付け。必要に応じて車体ぎ装関係の改修を実施する。	１編成	
2	機能検査・動作確認	取付作業後に現車で実施する	１編成	
3	試　運　転	構内及び本線での走行試験	１編成	
4	撤去品の処分	必要に応じてマニフェスト発行	１編成	

４　納入時期　平成３１年１０月ごろ

５　履行期限　平成３２年３月３１日

６　その他

本装置の構成上，甲が必要と判断し，指示するものについては，漏れなく具備すること。

付表２

主　要　諸　元　等

１　路線条件

項目／線区名		市　交　線	近　鉄　線
軌　　　　　間		１，４３５㎜	１，４３５㎜
最急勾配	本　線	３５‰	３５‰
	側　線	４５‰	３‰
分　岐　器	本　線	８番以上	７番以上
	側　線	６番以上	７番以上
最小曲線半径	本　線	１６０ｍ	２２０ｍ
	側　線	８０ｍ	２００ｍ

２　運転条件

項目／線区名		市　交　線	近　鉄　線
区　　　　　間		国際会館 ～ 竹 田	竹田 ～ 近鉄奈良
駅平均距離		約１．０ｋｍ	約１．６ｋｍ
最高運転速度		７５ｋｍ/ｈ	１０５ｋｍ/ｈ
表定速度		約３３ｋｍ/ｈ	約４３ｋｍ/ｈ
加　速　度		３．３ｋｍ/ｈ/ｓ以上（乗車率は，別途指示）	
減　速　度	常用最大	３．５ｋｍ/ｈ/ｓ（乗車率は，別途指示）	
	非　常	４．０ｋｍ/ｈ/ｓ（乗車率は，別途指示）	
平均駅停車時分		約２０秒	約２０秒
運転方法	本　線	手動（ATO は，自動）	手　　動
	側　線	手　　動	手　　動

３　編　　成

（今回）６両	M_2’Ｃ－M_1’－T_2－T_1－M_1－M_2Ｃ
（最終）８両	M_2’Ｃ－M_1’－T_2－M_1ｃ－M_2ｃ－T_1－M_1－M_2Ｃ

４　車種と主要取付機器（順次ＶＶＶＦ化更新を実施中のため詳細は甲の指示による）

機器名	編成	第１０～２０編成					
	車種	M_2’C	M_1’	T_2	T_1	M_1	M_2C
	形式	1800	1700	1600	1300	1200	1100
乗務員室		1					1
制御装置			1			1	
主電動機		4	4			4	4
低圧電源装置				1	1		
空気圧縮機		1					1
ブレーキ装置		1	1	1	1	1	1
車両情報装置（モニタ装置）		1	1	1	1	1	1
集電装置			2			2	
蓄電池		1		1			1
ＡＴＣ装置		1					1
誘導無線装置		1					1
列番装置		1					
自動密着連結器		1					1
半永久連結器		1	2	2	2	2	1
クーラー		4	4	4	4	4	4
台車		2	2	2	2	2	2
ＡＴＳ装置		1					1
列選装置		1					1
正面表示器		1					1
側面表示器		1	2	2	2	2	1
車内表示器（更新車のみ）		4	4	4	4	4	4
空間波無線装置		1					1
ＡＴＯ装置（将来）		1					1

５　車両に関する主要諸元（順次ＶＶＶＦ化更新を実施中のため詳細は甲の指示による）

車体寸法	車体長さ	２０，０００㎜
	連結面長さ	２０，５００㎜
	車体幅（外板間）	約２，７８０㎜
	車体高さ（パンタ折りたたみ）	４，２００㎜以下（空車時，軌条面上）
	床面高さ	１，１８０㎜　　（空車時，軌条面上）
	ボギー中心間距離	１４，１００㎜
	連結器中心高さ	先頭車８６０㎜，　中間車８８０㎜ （空車時，軌条面上）
自　重※ ※現状の自重 （更新により重量は変動）	M_2’Ｃ，M_2Ｃ	約３４．８トン
	M_1’，　M_1	約３６．８トン
	T_2，T_1	T_2約２９．０トン，T_1約２８．５トン
定　員	M_2’Ｃ，M_2Ｃ	１３０名
	M_1’，　M_1	１４４名
	T_2，T_1	１４４名
最大乗車率		約３５０％
電気方式		ＤＣ１５００Ｖ，架空線方式
制御	方式	ＶＶＶＦ制御 （回生ブレーキ，応荷重装置付）
	主電動機	誘導電動機　約１４０ｋＷ／ＭＭ
ブレーキ	方式	電気指令式電空併用ブレーキ （遅れ込めブレーキ）
	常用ブレーキ	空気ブレーキ及び回生ブレーキ
	非常ブレーキ	空気ブレーキ
	予備ブレーキ	空気ブレーキ
低圧電源装置	ＤＣ１００Ｖ　＋１０－３０％	低圧電源装置（整流装置）により蓄電池を浮動充電
	ＡＣ２００Ｖ　３φ６０Ｈｚ	低圧電源装置（静止型インバータ）の出力
	ＡＣ１００Ｖ　１φ６０Ｈｚ	低圧電源装置（静止型インバータ）の出力を変圧

<table>
<tr><td rowspan="4">台車</td><td>型式</td><td>平行カルダン空気ばね台車</td></tr>
<tr><td>車輪直径</td><td>８６０㎜（新製時）</td></tr>
<tr><td>固定軸距離</td><td>２，１００㎜</td></tr>
<tr><td>歯車比</td><td>９９：１６</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="6">運転保安装置</td><td rowspan="3">市交線</td><td>車内信号機付 ATC 装置（将来 ATO 装置）</td></tr>
<tr><td>誘導無線装置</td></tr>
<tr><td>列番装置</td></tr>
<tr><td rowspan="3">近鉄線</td><td>ＡＴＳ装置</td></tr>
<tr><td>空間波無線装置</td></tr>
<tr><td>列選装置</td></tr>
</table>

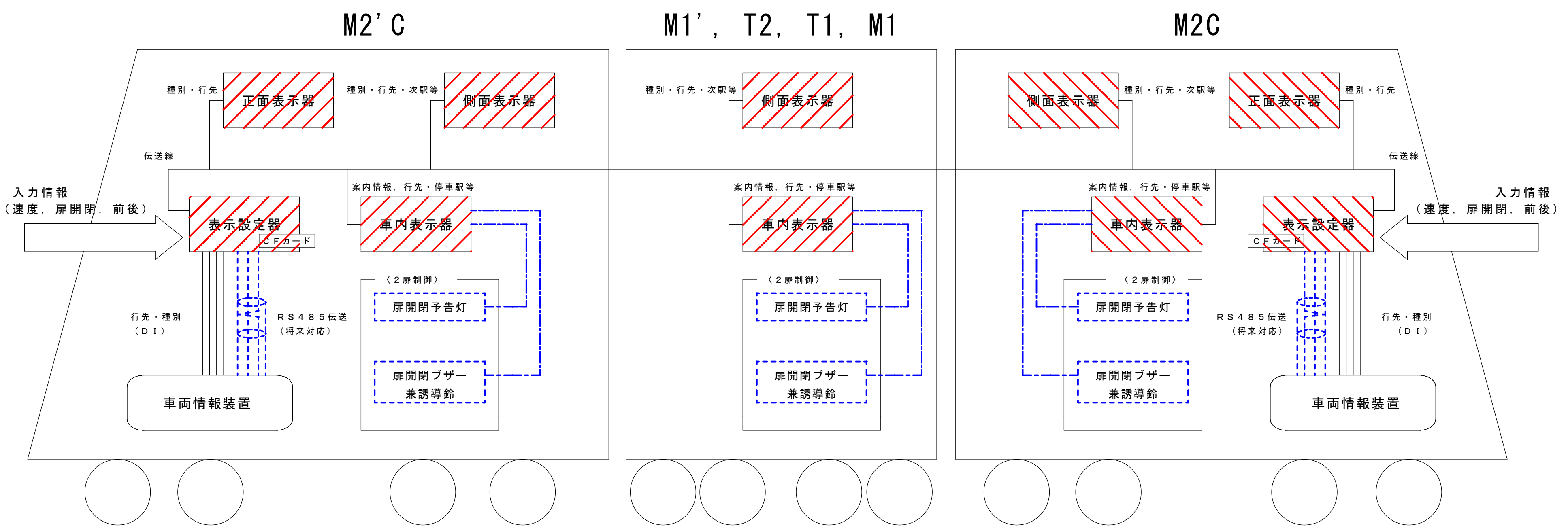
烏丸線10系車両駅キロ程表（車内案内表示器）

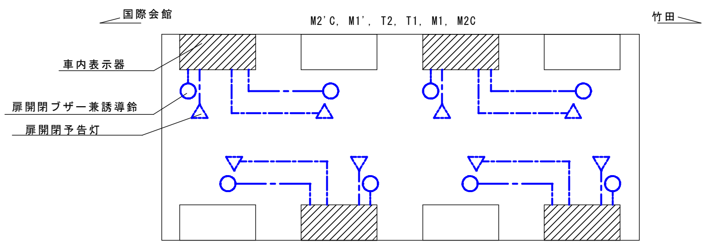
線区	停車駅	市交線	普通	急行	臨急	駅No.	キロ程[km]（駅中心）	駅間キロ程[km]		（参考）運転線路図 H9.4 キロ程[km]	（参考）京都線運転曲線 H21.3 キロ程[km]	備考
↑北行き	国際会館	○	○	○	○	98	-2.220	1.610	−	-2.220	−	
	松ヶ崎	○	○	○	○	99	-0.610		1.030	-0.610	−	
	北山	○	○	○	○	01	0.420	1.180		0.420	−	
	北大路	○	○	○	○	02	1.600		0.850	1.600	−	
	鞍馬口	○	○	○	○	03	2.450	0.810		2.450	−	
	今出川	○	○	○	○	04	3.260		1.530	3.260	−	
市交線	丸太町	○	○	○	○	05	4.790	0.667		4.790	−	
	烏丸御池	○	○	○	○	06	5.457		0.916	5.470	−	ホーム柵で北へ13m
	四条	○	○	○	○	07	6.373	0.757		6.370	−	ホーム柵で南へ3m
	五条	○	○	○	○	08	7.130		1.040	7.130	−	
	京都	○	○	○	○	09	8.170	0.760		8.170	−	
	九条	○	○	○	○	10	8.930		0.760	8.930	−	
	十条	○	○	○	○	11	9.690	1.140		9.690	−	
	くいな橋	○	○	○	○	12	10.830		0.758	10.830	−	
	竹田車両基地					80	10.850	0.738		−	−	
	竹田	○	○	○	○	13	11.588			11.588	−	
近鉄線			○	○	○	13	3.662	1.307	−	−	3.662	
	伏見		○			14	4.969		1.081	−	4.969	
	丹波橋		○	○	○	15	6.050	0.531		−	6.050	
	桃山御陵前		○	○	○	16	6.581		2.119	−	6.581	
	向島		○			17	8.700	2.784		−	8.700	
	小倉		○			18	11.484		1.249	−	11.484	
	伊勢田		○			19	12.733	0.897		−	12.733	
	大久保		○	○	○	20	13.630		1.030	−	13.630	
	久津川		○			21	14.660	1.327		−	14.660	
	寺田		○			22	15.987		1.471	−	15.987	
	富野荘		○			23	17.458	2.207		−	17.458	
	新田辺		○	○	○	24	19.665		1.485	−	19.665	
	（興戸）					25	21.150	1.330		−	21.150	
	（三山木）					26	22.480		0.720	−	22.480	
	（近鉄宮津）					27	23.200	1.280		−	23.200	
	（狛田）					28	24.480		2.300	−	24.480	
	新祝園			○	○	29	26.780	1.480		−	26.780	
	（木津川台）					30	28.260		1.040	−	28.260	
	（山田川）					31	29.300	1.580		−	29.300	
	高の原			○	○	32	30.880		2.668	−	30.880	
	平城				○	33	33.548	1.154		−	33.548	
	大和西大寺			○	○	34	34.702		2.753	−	34.702	
	新大宮			○	○	35	37.455	1.634		−	37.455	
	近鉄奈良			○	○	36	39.089		−	−	39.089	

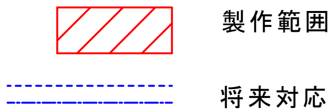
種別・行先設定

No.	種別・行先	線　番			
		M412D	M412C	M412B	M412A
1	回送	0	0	0	1
2	（空き）	0	0	1	0
3	国際会館	0	0	1	1
4	竹田	0	1	0	0
5	（空き）	0	1	0	1
6	急行　国際会館	0	1	1	0
7	臨急　国際会館	0	1	1	1
8	普通　国際会館	1	0	0	0
9	普通　新田辺	1	0	0	1
10	急行　奈良	1	0	1	0
11	臨時急　奈良	1	0	1	1
12	（空き）	1	1	0	0
13	（空き）	1	1	0	1
14	北山	1	1	1	0
15	北大路	1	1	1	1
16	烏丸御池	0	0	0	0
17	京都	0	0	0	0
18	普通　北山	0	0	0	0
19	普通　北大路	0	0	0	0
20	試運転	0	0	0	0

付図 1

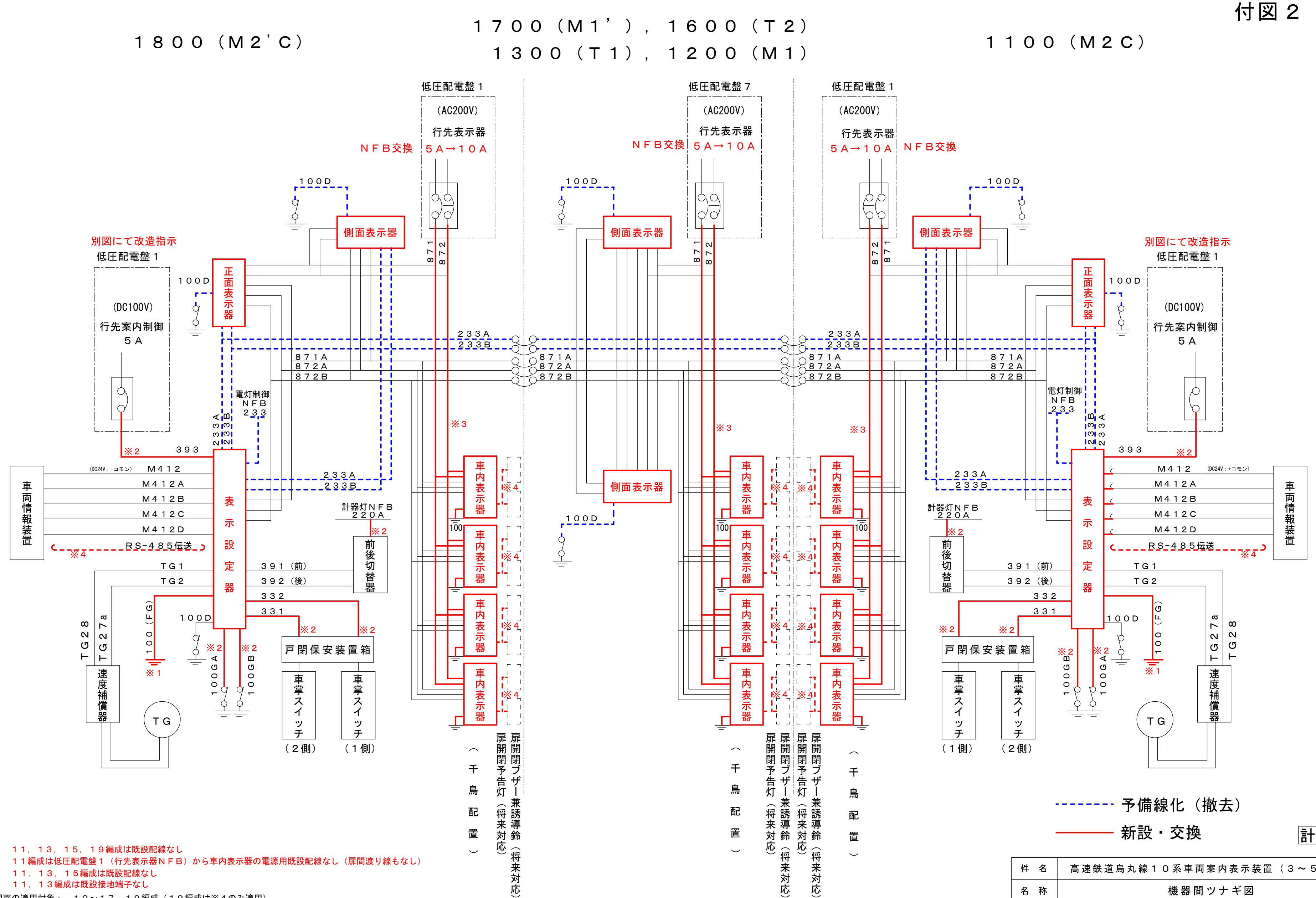






件　名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（３～５次車）
名　称	案内表示装置システムブロック図
	京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

付図２

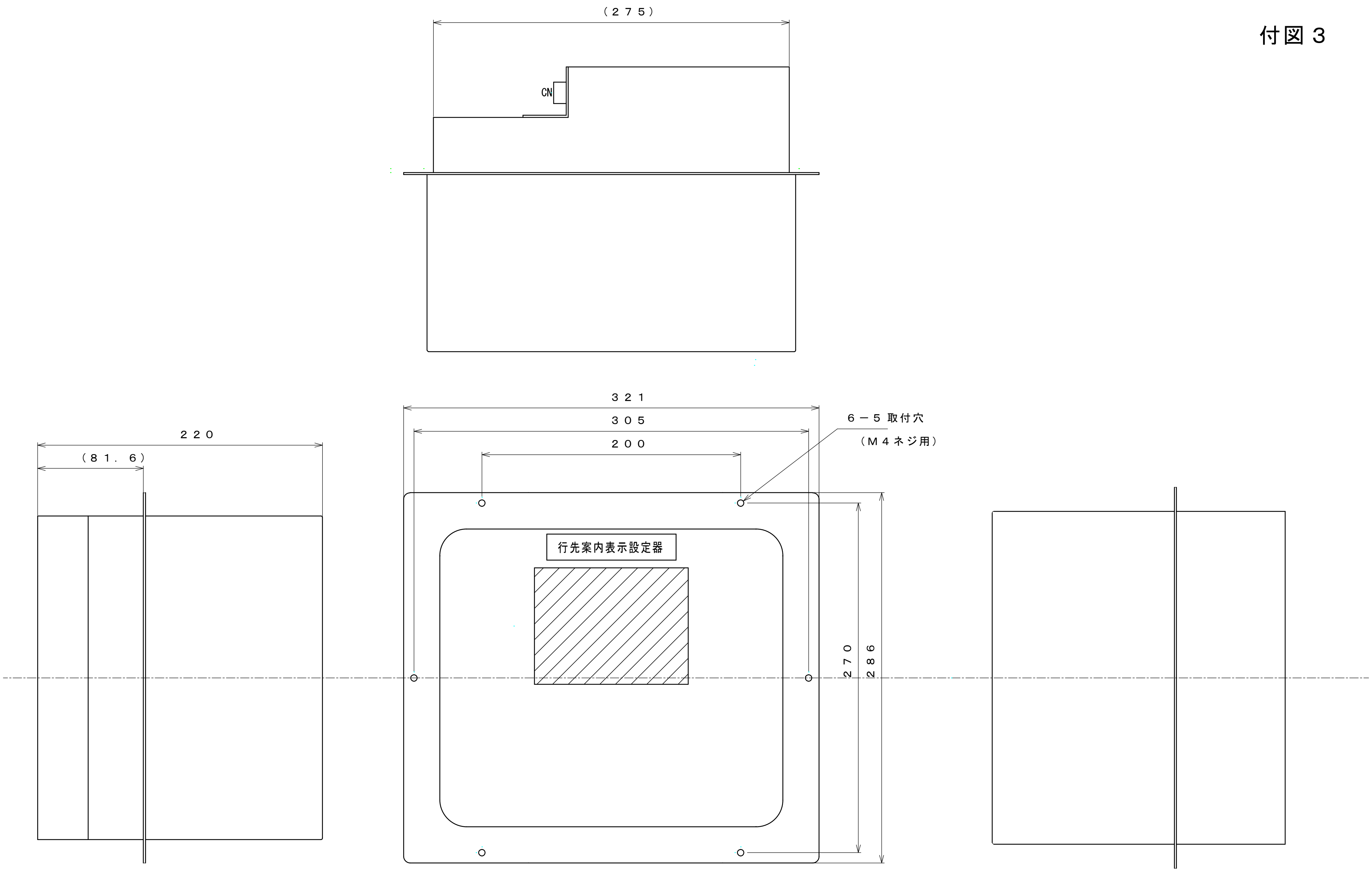


※４　１１，１３，１５，１９編成は既設配線なし
※３　１１編成は低圧配電盤１（行先表示器ＮＦＢ）から車内表示器の電源用既設配線なし（扉間渡り線もなし）
※２　１１，１３，１５編成は既設配線なし
※１　１１，１３編成は既設接地端子なし
本図面の適用対象：　１０～１７，１９編成（１９編成は※４のみ適用）

件　名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（３～５次車）
名　称	機器間ツナギ図

京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

付図３

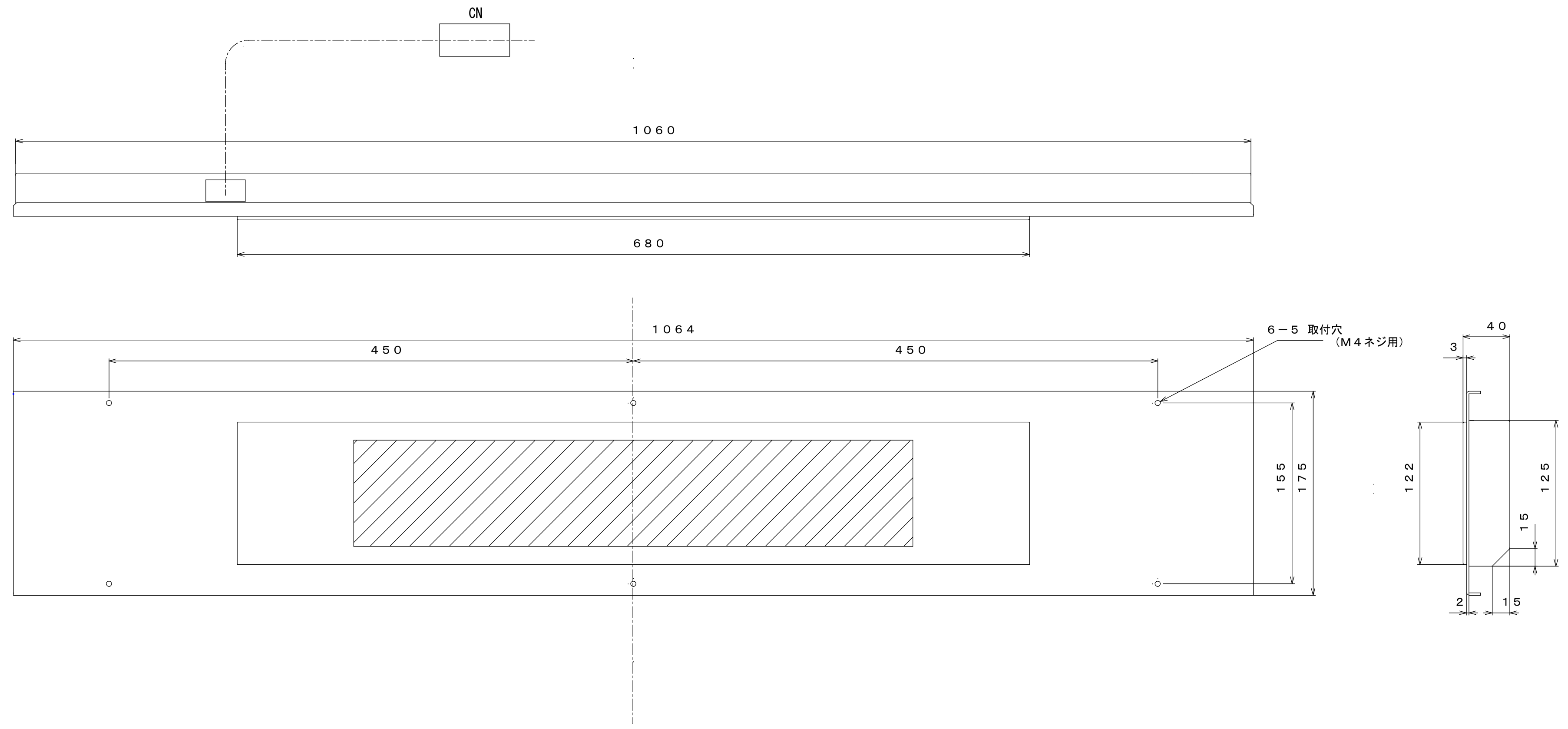


※外形寸法及び取付寸法以外は参考とする。

※ケーブル長は既設コネクタに接続できる長さとする。

件　名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（３～５次車）
名　称	表示設定器外形図（参考図）
京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課	

付図４

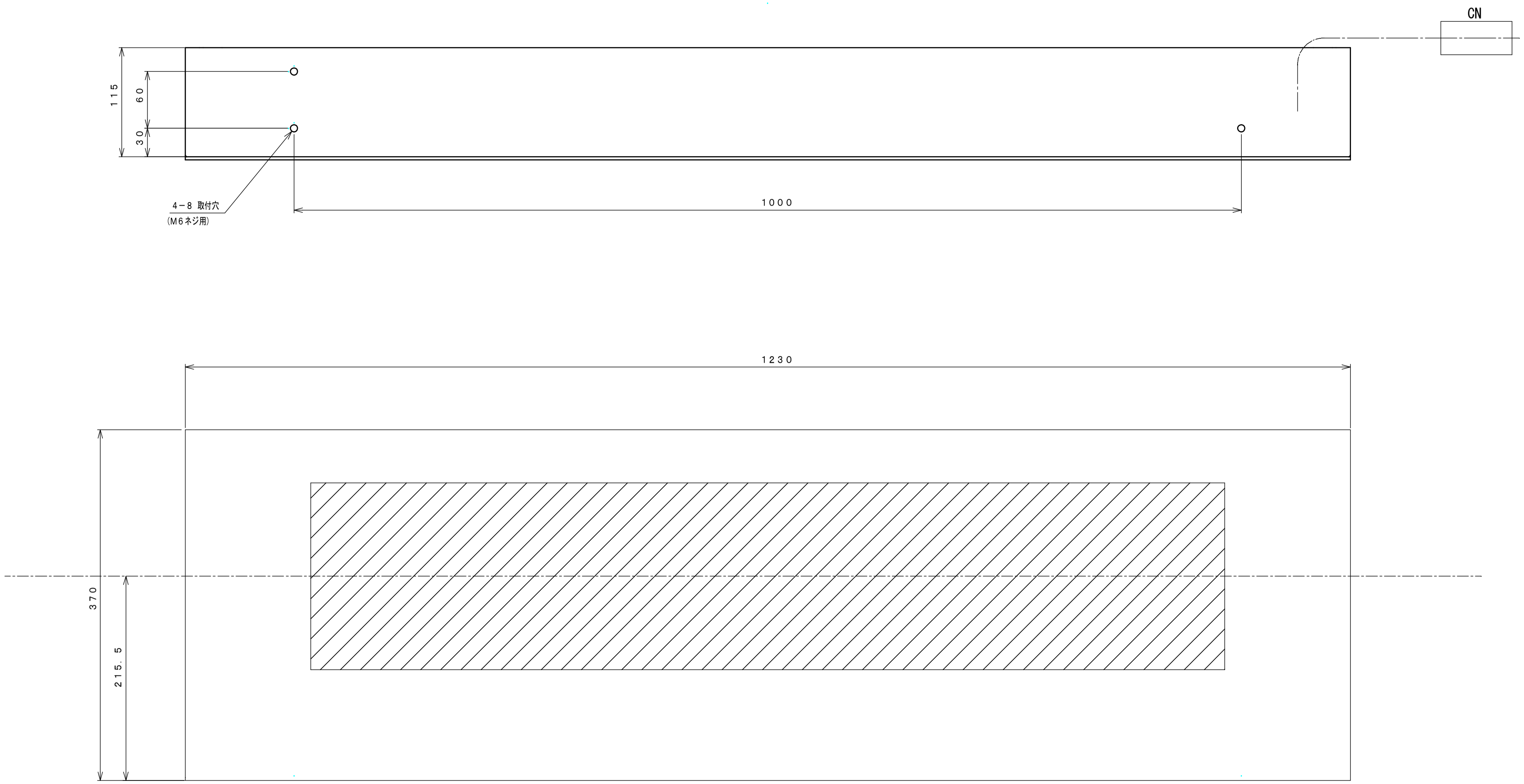


※外形寸法及び取付寸法以外は参考とする。

※ケーブル長は既設コネクタに接続できる長さとする。

件　名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（３～５次車）
名　称	車内表示器外形図（参考図）
京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課	

付図５

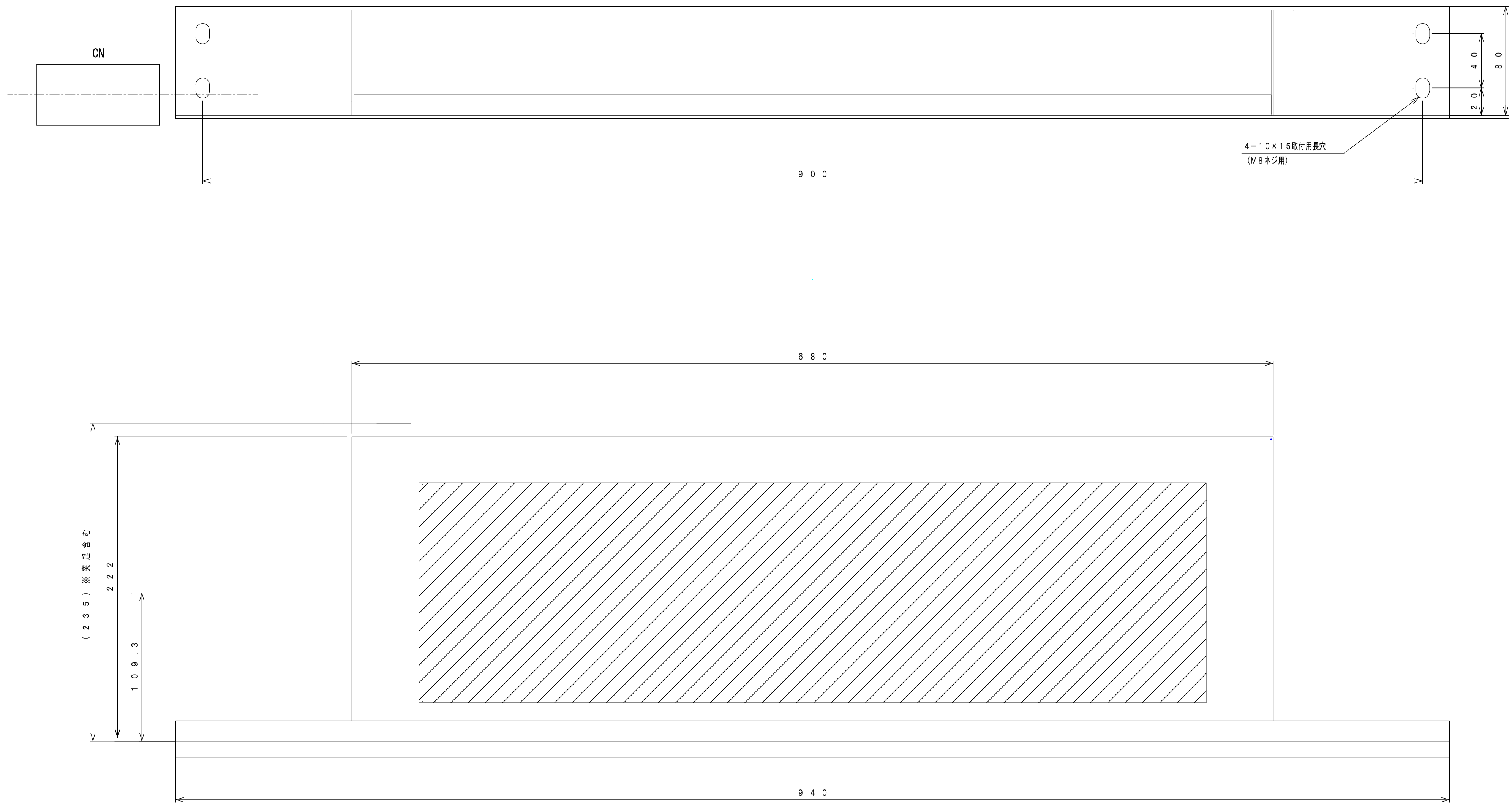


※外形寸法及び取付寸法以外は参考とする。

※ケーブル長は既設コネクタに接続できる長さとする。

件　名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（３～５次車）
名　称	正面表示器外形図（参考図）
	京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

付図６

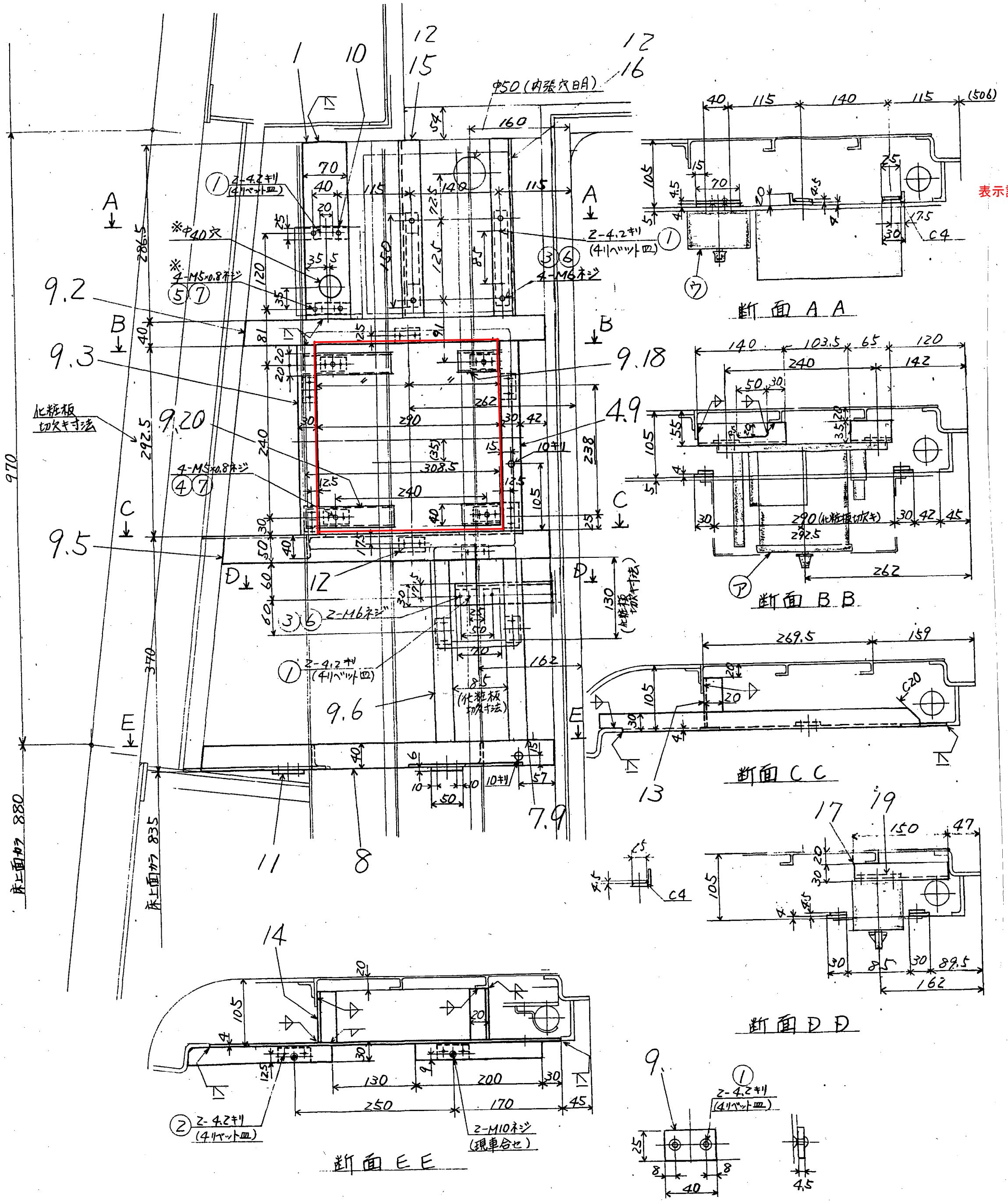


※外形寸法及び取付寸法以外は参考とする。

※ケーブル長は既設コネクタに接続できる長さとする。

件 名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（３～５次車）
名 称	側面表示器外形図（参考図）
	京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

付図 7



表示設定器⇒

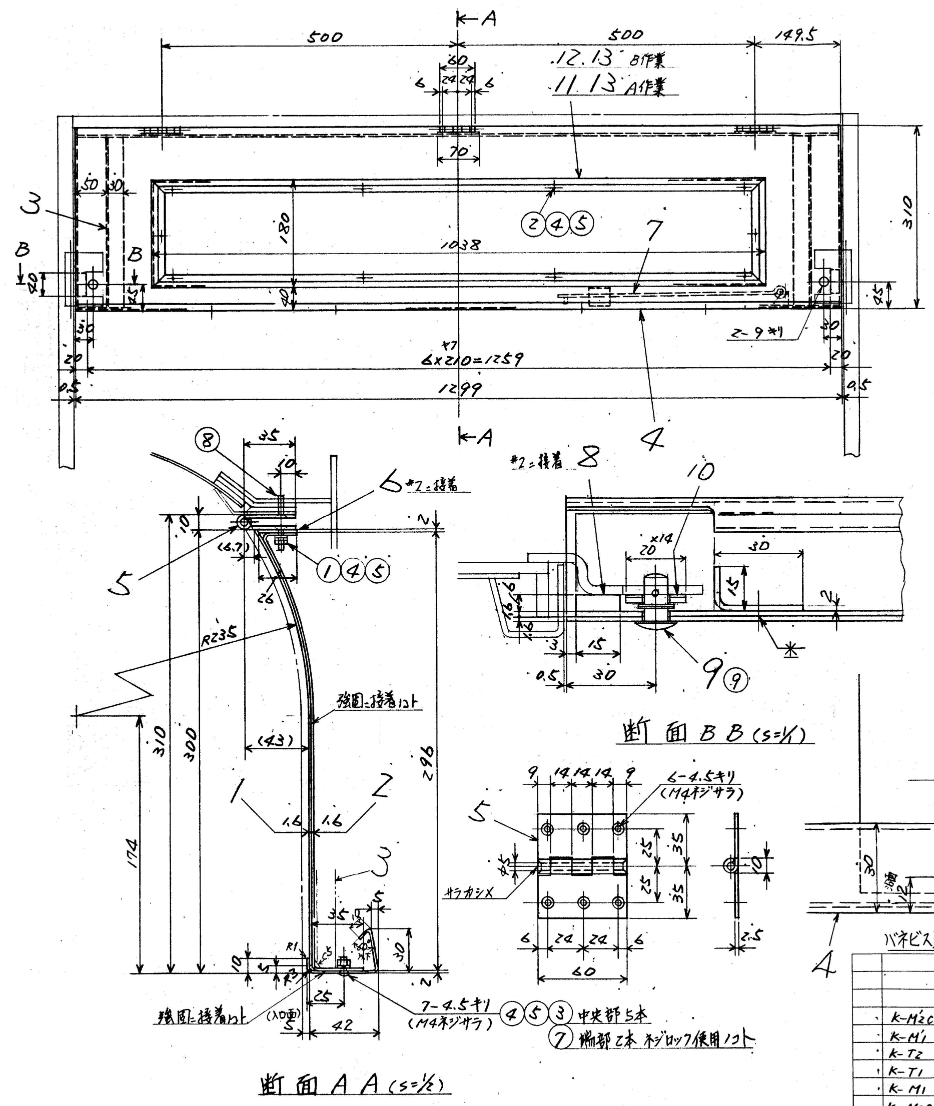
B	A	訂正	部署	照号 (REF. No.)	名称 (DESCRIPTION)	類別コード	図面番号 (DWG. No.)	材料 (MATERIAL)	1分所要数	重量 単 (WEIGHT)	重量 計	記事 (REMARKS)	素材寸法	改訂記号 (REV. MARK)
	1			㋐	行先表示器指令器			組立品						
	1			㋑	指令無線制御器			〃						
	1			㋒	車内放送モニター			〃						
	1			㋓	暖房操作スイッチ			〃						
	1		(V)	1	取付金			A5083P-O					4^t×70×287	
	1			2	骨組			〃					4^t×40×480	
	1			3	〃			〃					4^t×30×293	
	1			4	〃			〃					4^t×30×293	
	1			5	〃			A5083S-H112				4-012462*	#557×389×550	
	1			6	〃			A5083P-O					4^t×30×280	
	1			7	〃			〃					4^t×30×280	
	1		(V)	8	〃			A5083S-H112				DEE17168*-1	#006×266×600	
	13		VGU	9	ネジ座			SS41				MFZnⅢ-C	25×4.5×40	
	2		VGU	10	〃			〃				〃	25×4.5×70	
	2		VGU	11	〃			〃				〃	25×6×50	
	2		VGU	12	〃			〃				〃	25×4.5×150	
	1		(V)	13	補強			A5083S-H112				DEE17168*-1	#006×266×81	
	2			14	〃			〃				〃	#006×266×81	
	1			15	取付金			A5083P-O					4^t×50×287	
	1			16	〃			〃					4^t×50×287	
	1			17	〃			A5083S-H112				DEE17156	#008×226×150	
	2		(V)	18	〃			A5083P-O					4^t×110×65	
	1		VGU	19	ネジ座			SS41				MFZnⅢ-C	25×4×70	
	2		(V)	20	取付金			A5083P-O					4^t×110×140	
				21										
	36		GU	①	サラリベット 4×15			SWRM12+Z					J	
	4		GU	②	〃 4×16			〃					J	
	6		GW	③	⊕ナベネ M6×20			〃					J	
	4		GW	④	〃 M5×25			〃					J	
	4		GW	⑤	〃 M5×16			〃					J	
	6		GW	⑥	バネザ M6			SWRH62+Z					J	
	8		GW	⑦	〃 M5			〃					J	

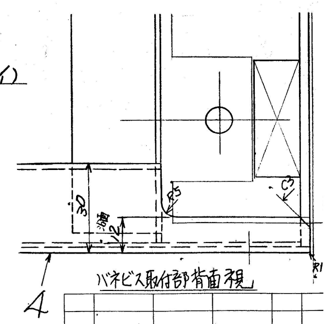
図面は10系3～5次車用

件名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置
名称	表示設定器取付図（既存）
	京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

付図８

B	A	訂正	部署	照号	名称	類別コード	図面番号	材料	1分所要数	重量 単	重量 計	記事	素材寸法	改訂記号
1	1		RD	1	羽目板			MPAl		1.56		ALH-P0638	1.6t×315×1300	
1	1		/	2	ウラ板			A5005P-H14		2.05			1.6t×365×1293	
L1 R1	L1 R1		/	3	補強			〃		0.07			2t×41×305	
1	1		/	4	押エ面			A5005P-H14		0.63		AMS9	2t×89×1299	
3/2 3/2	3/2 3/2		/	5	ヒンジ			SUS304		0.10		表面バフ 25, φ4.5		
3	3		/	6	ライナー			A5005P-H14		0.—			2t×26×70	
1	1		/	7	カモイ支持棒			組立品		0.19			Z-078139-A	
2	2		/	8	当り板			コーシツエンカビニル		0.01		灰色	6t×15×40	
2	2		/	9	S形バネビス			組立品		0.02		種別4	Z-077881-D	
4	4		GW	10	パッキン	F221		コーシツエンカビニル		0.—		中央ニ5mm穴明ケノコト	1t×14×20	
/	1		/	11	広告ワク			フミタテヒン		0.44		購入品支給	Z-077408-A	
1	/		/	12	広告ワク			フミタテヒン		0.44		購入品支給	Z-077408-B	
1	1		/	13	紙ハサミ			コーシツエンカビニル		0.28			3-072660-A	
9	9		/	①	⊕サラネM4×16			SUS304		0.—				
10	10		/	②	⊕サラネM4×10			〃		0.—				
5	5		/	③	⊕マルサラネM4×12			〃		0.—				
26	26		/	④	ジョーナM4-2			〃		0.—				
26	26		/	⑤	バネザM4			SUS304		0.—				
9	9		/	⑥	シザ M4			SUS304CP		0.—				
2	2		/	⑦	⊕マルサラネ M4×8			SUS304		0.—				
9	9		GW	⑧	⊕サラネM4×16			SUS304		0.—			J	
4	4		GW	⑨	⊕サラネM4×10			SUS304		0.—			J	
/	1		DW	900	テンケンフタ			フミタテヒン		5.65		#1, #11 支給・裏面N6より	1~8, 11 ①~⑦	
1	/		DW	901	テンケンフタ			フミタテヒン		5.65		#1, #12 支給 〃	1~8, 12 ①~⑦	





	K-M'2C	216	7A+B
	K-M'1		8A
	K-T2		8A
	K-T1		8A
	K-M1		8A
	K-M2C		7A+B
	作番	装置番	作業

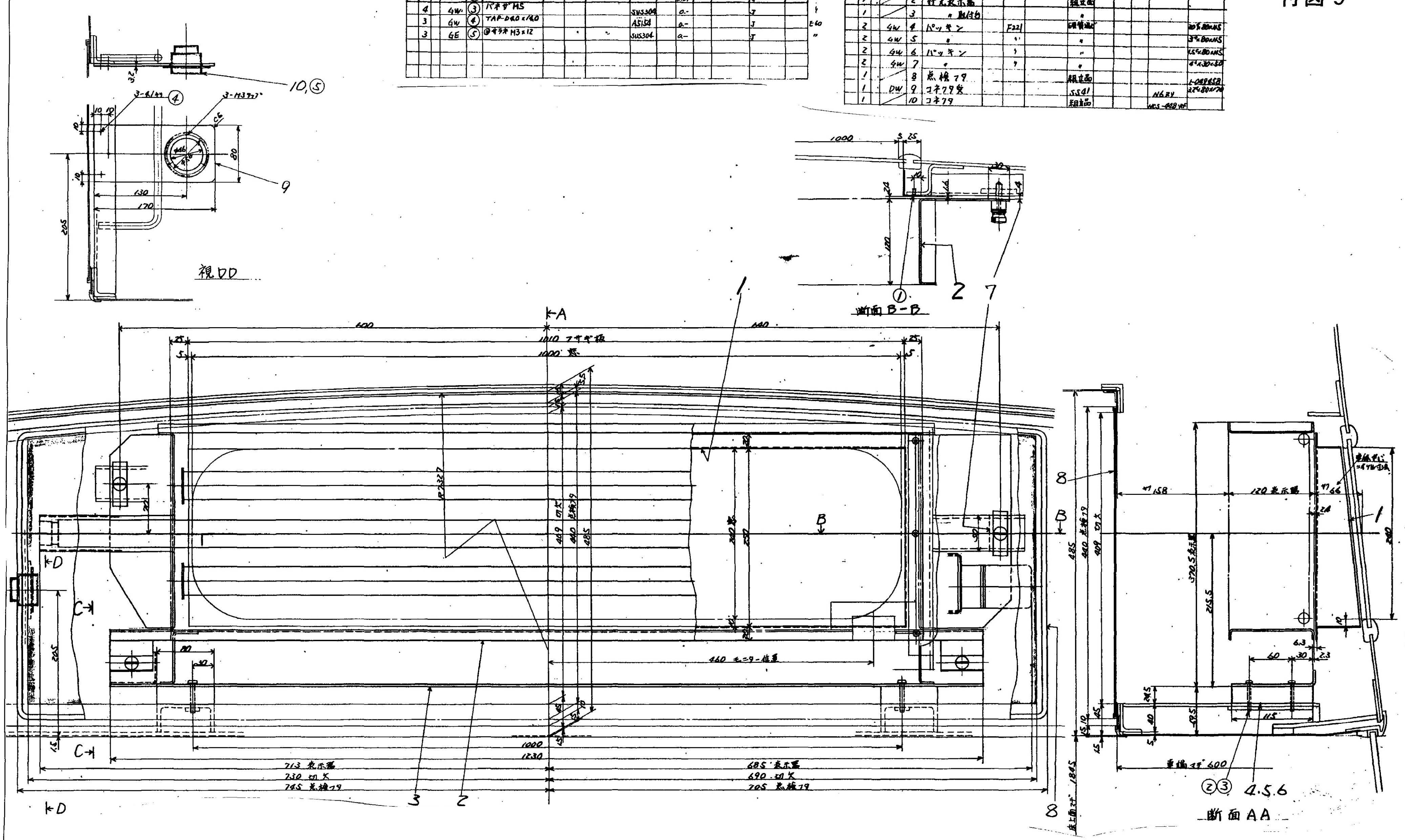
図面は 10 系 3～5 次車用

件名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置
名称	側引戸カモイ点検フタ（既存）
京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課	

付図 9

B	A	訂正	部番	照号	名称	類別コード	図面番号	材料	1分所要数	重量 単	重量 計	記事	素材寸法	改訂記号
	6		GW	①	⊕サラネ M4×10			SUS304		0.-			J	
	4		GW	②	⊕ナベネ M5×40			〃		0.01			J	
	4		GW	③	バネザ M5			SUS304		0.-			J	
	3		GW	④	TAP-D80×140			A5154		0.-			J	
	3		GE	⑤	⊕サラネ M3×12			SUS304		0.-			J	

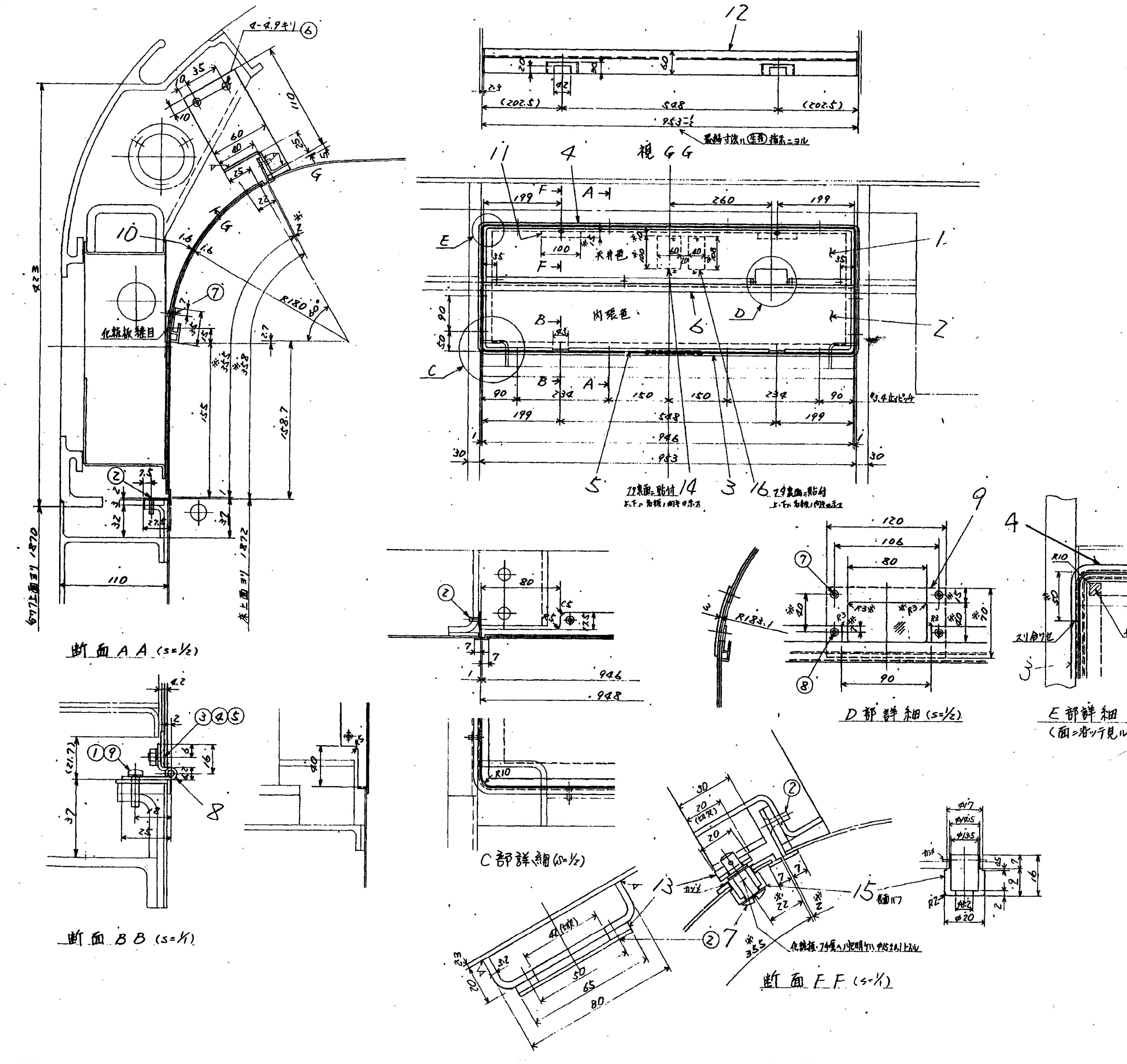
B	A	訂正	部番	照号	名称	類別コード	図面番号	材料	1分所要数	重量 単	重量 計	記事	素材寸法
	1			1	フサギ板			A5005P-H32				21.6	3-
	1			2	行先表示器			組立品					
	1			3	〃 取付台			〃					
	2		GW	4	パッキン	F221		硬質塩ビ					20t×80×MS
	2		GW	5	〃	〃		〃					3t×80×MS
	2		GW	6	パッキン	〃		〃					1.5t×80×MS
	2		GW	7	〃	〃		〃					4t×30×50
	1			8	点検フタ			組立品					1-0894SB
	1		DW	9	コネクタ受			SS41				N6ZY	3.2t×80×170
	1			10	コネクタ			組品				NCS-408	



図面は10系3～6次車用

件名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置
名称	正面表示器取付図（既存）
	京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

付図10



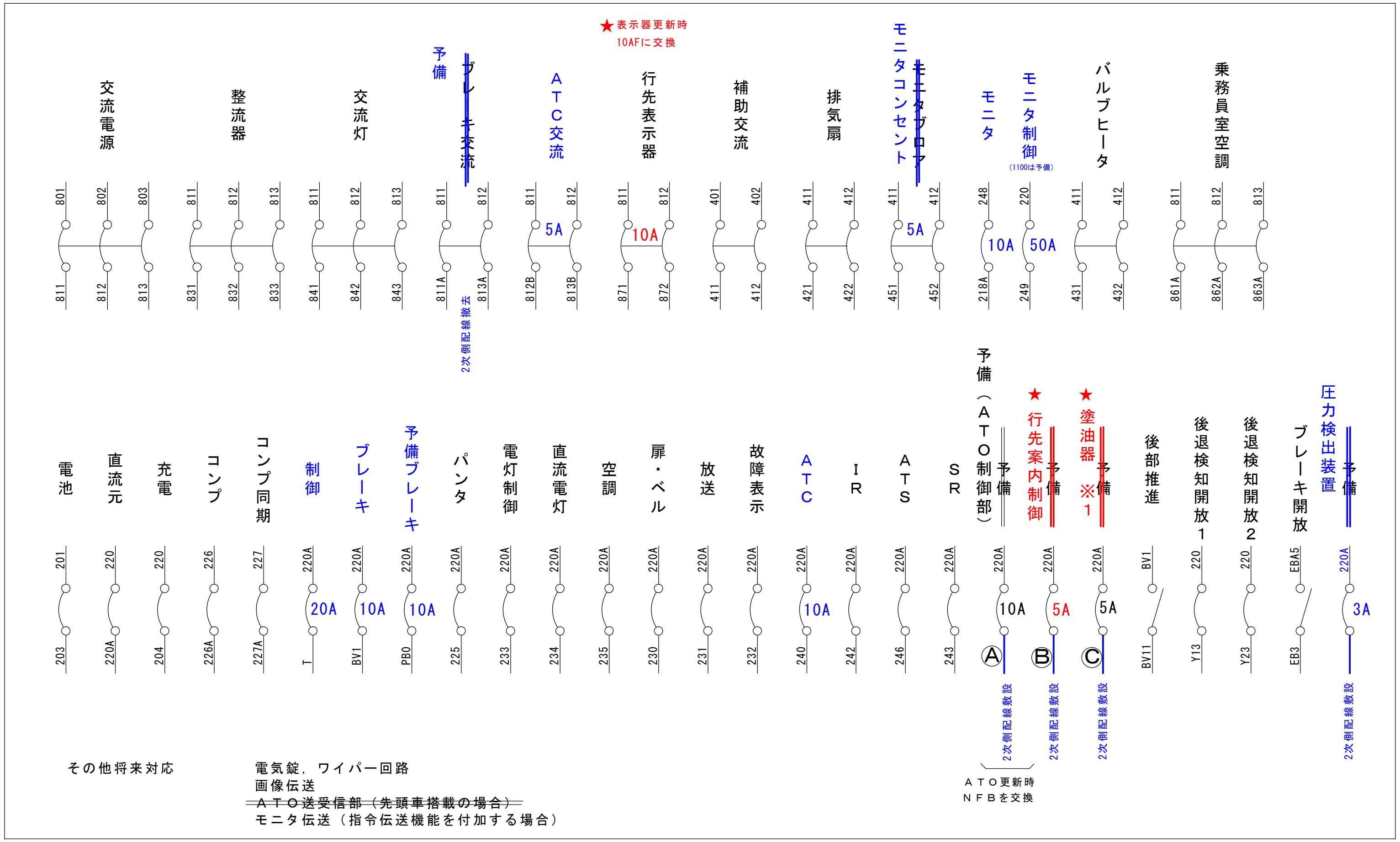
B	A	訂正	部番	照号	名称	類別コード	図面番号	材料	1分所要数	重量 単	重量 計	記事	素材寸法
	1		RD	1	内張板			HPAℓ		0.63		ALH-0713	t6ᵗ×181×937
	1		RD	2	内張板			HPAℓ		0.59		ALH-P0638	t6ᵗ×166×937
	1			3	フチ金			A6063S-T1		0.27		AMS9	031×60×1300 3-014502
	1			4	〃			〃		0.17		〃	031×62×1300 3-014502
	1/2			5	フチ金			〃		0.41		〃	209×99×2600 4-019112
	1			6	ポスターレール			A6063S-T1		0.29		AMS9	1×113×942 DEE17174
	2			7	S形バネビス			組立品		0.02		特別7	2-077881-
	2			8	ヒンジ			組立品		0.02			3-073276-
	1			9	フサギ板			アクリライト		0.03		3ᵗ 透明	
	1			10	ウラ板			A5005P-H14		1.21			t6ᵗ×312×903
	2			11	ウラ板			A5005P-H14		0.01			2ᵗ×15×100
	1/2			12	点検フタ受			SPHC SS41		2.30		t2.3, t3.2	
	4		RW	13	パッキン			HB ハードボード		0.–		3.5ᵗ	3.5ᵗ×14×20
	1			14	取扱名板		小糸 13-1044E8484	接着フィルム				側表示器	1-050930-3
	2		GD	15	バネビス案内	L939		A5052B				AMS9, ツヤケシ アルマイト	
	1			16	対照名板		小糸 13-1044E8503	接着フィルム				側表示器	1-051330-2
	4		GW	①	⊕ナベネM4×16			SUS304		0.–			J
	18		GW	②	⊕サラネM4×12			〃		0.–			J
	4			③	⊕サラネM4×8			〃		0.–			
	4			④	ジョーナM4-2			〃		0.–			
	4			⑤	バネザM4			SUS304		0.–			
	4		GW	⑥	TAP-D4.8×14.7			A5154		0.–			J
	5			⑦	TAP-K4.0×10.4			〃		0.–			
	2			⑧	TAP-K4.0×14.0			A5154		0.–			
	4		GW	⑨	バネザM4			SUS304		0.–			J
	1		DW	900	テンケンフタ			ステンレス		5.95		側面 台より	1~6,8ニ付 ③-⑤⑦⑧

図面は10系3～6次車用

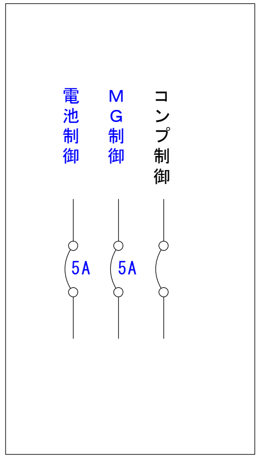
件名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置
名称	側面表示器取付図（既存）

京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

低圧配電盤１



低圧配電盤２



★　※２

施工前（ＶＶＶＦ改造後）

	３，５次車	４次車（塗油器）	６次車（案内表示）
Ⓐ	（予備） 239	（予備） 239	（予備） 239
Ⓑ	（予備）	塗油器 ※１ 247	行先案内制御 393 10A
Ⓒ	（予備） TS1	（予備） TS1	（予備） TS1

→

施工後（銘板製作交換，配線変更を含む）

	３，５次車	４次車（塗油器）	６次車（案内表示）
Ⓐ	（予備） 239	（予備） 239	（予備） 239
Ⓑ	行先案内制御 393	行先案内制御 393	行先案内制御 393 5A
Ⓒ	（予備） TS1	塗油器 ※１ 247	（予備） TS1

★赤字：案内表示器工事で新設・交換・改造
青色：ＶＶＶＦ改造で施工（別契約）

計画案

※１　Ｍ２Ｃ（1100号車）のみ，Ｍ２’Ｃ（1800号車）は予備
※２　３次車：１０～１４編成／４次車：１５編成／５次車：１６，１７編成／６次車：１８～２０編成

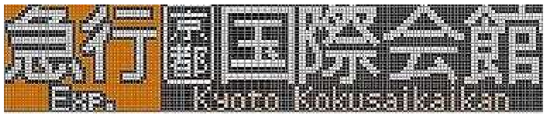
件名	高速鉄道烏丸線１０系車両案内表示装置（３～５次車）
名称	低圧配電盤（Ｍ２’Ｃ，Ｍ２Ｃ）
	京都市交通局　高速鉄道部　高速車両課

烏丸線１０系車両各表示器画面案

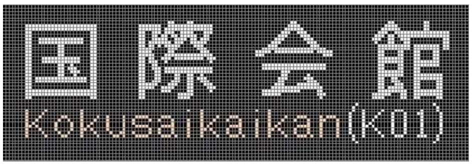
<table>
<tr><th>機器名</th><th>現　状</th><th>更新後</th></tr>
<tr><td>車内表示器</td><td>烏丸線車両（３編成のみ）


【３色ＬＥＤ】</td><td>烏丸線車両（１１編成）


【フルカラー液晶】</td></tr>
<tr><td>正面表示器</td><td>烏丸線車両（１１編成）


【印刷幕】</td><td>烏丸線車両（１１編成）


【カラーＬＥＤ（５１２色）】</td></tr>
<tr><td>側面表示器</td><td>烏丸線車両（１１編成）


【印刷幕】</td><td>烏丸線車両（１１編成）


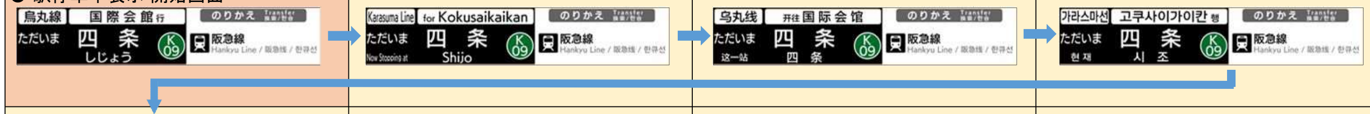
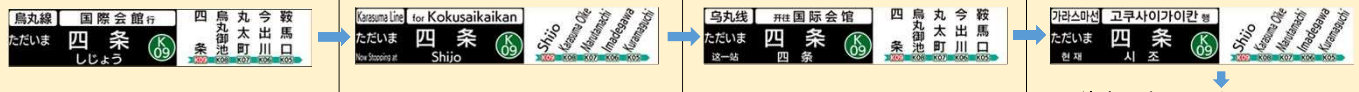
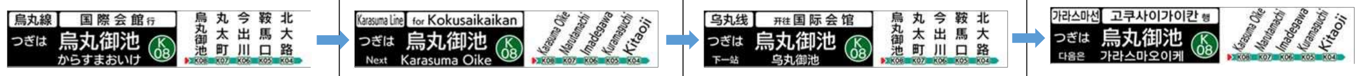
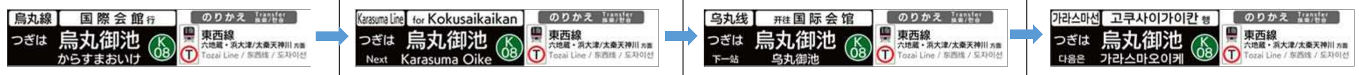
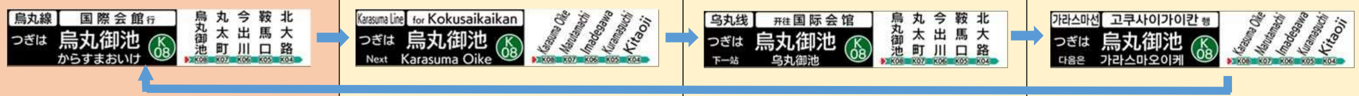
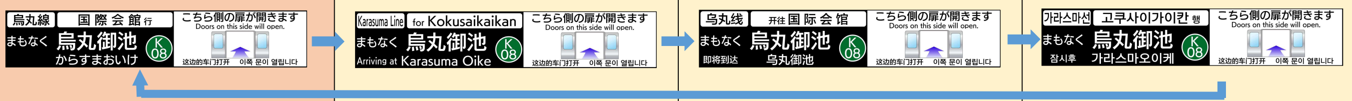
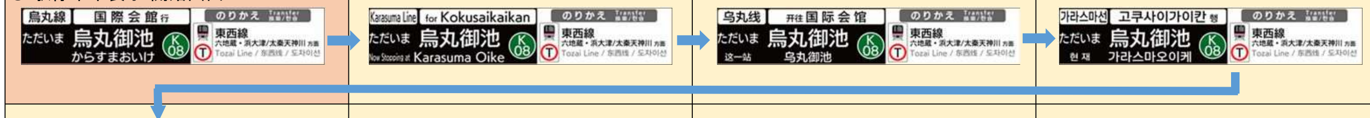
【カラーＬＥＤ（５１２色）】</td></tr>
</table>

付図１３

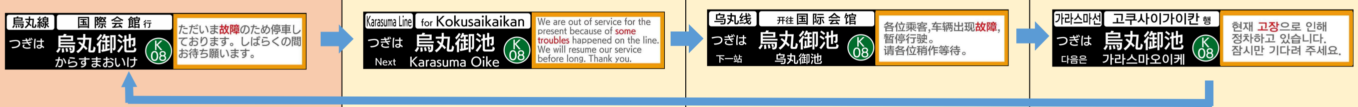
○案内表示画面の表示例

■ 烏丸線 10系 LCD車内表示器 画面表示サンプル

◆ 四条～烏丸御池 走行シミュレーション

No.	列車状態		漢字＋【かな】	漢字＋【英語】	漢字＋【中国語】	漢字＋【韓国語】	画面右側 案内内容	
1	駅停車中	四条停車中	● 駅停車中表示 開始画面 				のりかえ案内	乗換駅の場合，乗換案内を表示します。（日＋英＋中＋韓）
			 ● 駅停車中表示 開始画面 に戻る				路線案内（停車中）	路線案内を交互（日⇔英）に表示します。停車中の駅が赤色表示となります。
2	駅間走行中	四条発車					路線案内（走行中）	路線案内を交互（日⇔英）に表示します。列車の走行位置（画面端）に赤矢印を表示します。
							のりかえ案内	次駅が乗換駅の場合，乗換案内を表示します。（日＋英＋中＋韓）
							路線案内（走行中）	全ての表示を行った後，駅接近まで路線案内を交互（日⇔英）に表示します。
3		烏丸御池接近					戸開方向案内	駅に接近すると戸開方向案内を表示します。（日＋英＋中＋韓）
4	駅停車中	烏丸御池停車中	● 駅停車中表示 開始画面 				のりかえ案内	前駅停車中と同じ
			 ● 駅停車中表示 開始画面 に戻る				路線案内（停車中）	前駅停車中と同じ

◆ 設定器の操作による表示

No.	列車状態		【日本語】	【英語】	【中国語】	【韓国語】	画面右側 案内内容	
5	－	－					緊急案内	設定器の画面操作で優先(割込み）表示可能